

平成22年度えひめ子どもの体力向上プラン

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査で明らかになった本県の課題】

体力合計点では、小学5年生は全国平均とほとんど差がないが、中学2年生は下回っている。

体力合計点における総合評価の割合では、小学5年生男子はAの割合が全国平均より高いが、小学5年生女子と中学生はA及びBの割合が低い。また、D及びEの割合は小中学生ともに全国平均より高い。

小学5年生で約7割、中学2年生で約6割の子どもが、昭和60年の県平均値を下回っている。

生活習慣等は前年度と比較して改善傾向にあるものの、朝食摂取率や睡眠時間などは、依然として全国平均より低い状況にある。

体育の授業以外にほとんど運動をしない子どもが、小学5年生女子で約2割、中学2年生女子で約3割である。

運動・スポーツに対する肯定感や体育・保健体育の授業に対する肯定感は全国平均と比べて高い。

体力向上への取組を授業以外に継続して行っている小学校は約8割であるが、中学校は約2割である。

【本県の目標】

子どもの体力を上昇傾向に転じさせ、昭和60年頃の水準への回復を目指す。

《提言》

- す すべての子どもがスポーツに親しめる環境を（二極化への対応）
- こ 子どもの頃から望ましい生活習慣を（早寝、早起き、朝ごはん）
- や やってみよう続けてみよう子どもが思う個に応じた指導を（調査結果を指導に活かす）
- か 家庭・地域で運動習慣・生活習慣の見直しを（家庭や地域との連携）

【子どもの体力向上に向けて】

運動が苦手な子どもたちへの重点的な支援

《授業改善》

校内研修、指導者養成講習会への参加など授業力の向上

体育専科教員による授業研究等への積極的参加

《授業以外で運動する「場」の設定》

「えひめ子どもスポーツITスタジアム」など体力向上プログラムの実践

運動部活動の活性化（外部人材の活用等専門性を活かした指導の充実など）

生活習慣の改善を粘り強くサポート

食育、健康サポートなど、全ての教職員が連携した指導の実践

健康講演会、朝ごはん教室の開催など、家庭への啓発活動の充実

地域のスポーツ関係団体やスポーツクラブ等と連携した取組みの推進

「子どもの体力向上地域連携協議会」の開催

構成員：学識経験者・スポーツ関係者・社会教育団体関係者・学校関係者・行政関係者等

家庭における運動習慣の意識づけ

地域支援事業を参考

【それぞれの役割】

学校

子どもの体力向上に向けた校内体制の整備及び校内研修の充実
体育の授業以外（中休み等を利用して）に、体力向上に係る取り組みを継続的に実施
新体力テストの全学年全種目実施による子どもの体力の実態把握
新体力テスト等の結果を活用したすべての子どもの健康・体力づくり
各家庭に向けた望ましい生活・運動習慣、食育等に関する啓発

家庭

望ましい生活・運動習慣の形成及び家族ぐるみでの実践
地域や学校における子どもの体力向上に向けた取組への積極的な参加

地域

スポーツ少年団、体育指導委員、教員等、地域ぐるみでの総合型地域スポーツクラブ運営への参画
総合型地域スポーツクラブ等による、すべての子どもたちがスポーツに親しめる環境作り
すべての子どもにバランスのよい動きと必要な体力を身に付けさせるとともに、整形外科医等と連携したスポーツ障害予防のための検診を実施

小中体連

子どもの体力向上を目指した教員の研修会や授業研究等の充実
学校における体育の授業や体力づくり活動に活かせる質の高い運動プログラムの開発

スポーツ関係団体

質の高い指導者の育成と、出前教室など地域のスポーツ活動や学校の体育活動への指導者の派遣
地域のスポーツ活動や学校の体育活動への幼児期からの質の高い運動（遊び）プログラムの提供
トップアスリートの競技や試合の観戦について積極的な情報発信

市町教委

全国体力・運動能力、運動習慣等調査を活用し、地域ぐるみで子どもの体力向上について検討するための体制作り（子どもの体力向上地域連携協議会等）
子どもの体力向上に向けた教員研修の実施
運動場の芝生化を検討するなど、体育施設・設備等の充実
公共施設の開放（遊び場）について積極的な情報発信

県教委

「子どもの体力向上支援委員会」による「えひめ子どもの体力向上プラン」の検証と、学校や市町教委の体力向上に向けた取組への支援
子どもの体力向上を目指した教員の研修会や授業研究等の充実
体力向上に向けた事業（「えひめ子どもスポーツITスタジアム」など）の推進
体力向上をめざした質の高いプログラムの開発・普及
「えひめ子ども健康サポート計画」の推進